

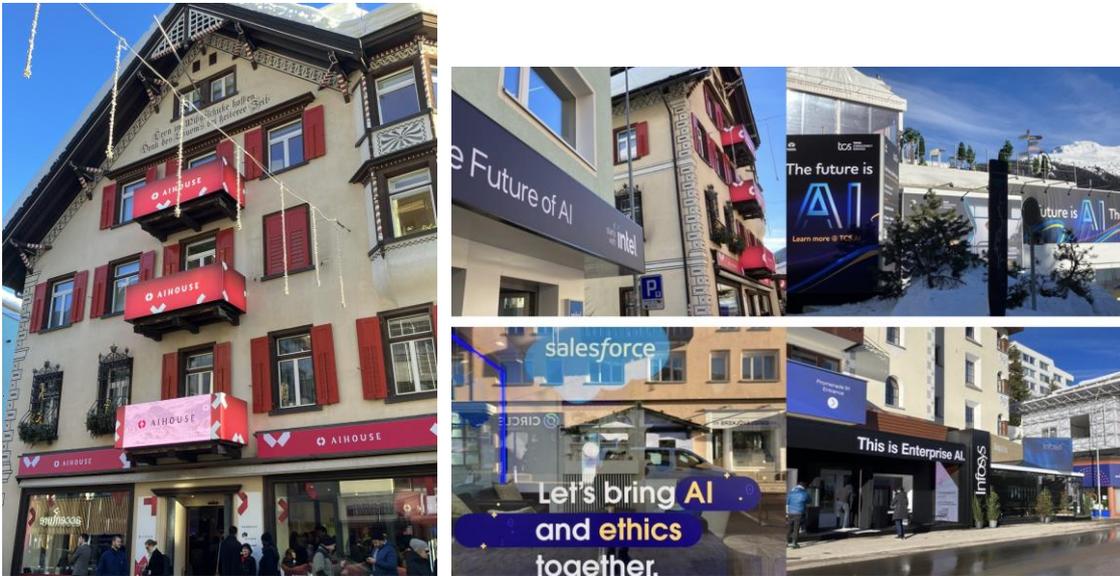
AI House Davos の開催結果について

2024 年 1 月 22 日

東京大学 Beyond AI 研究推進機構

1. 概況

2024 年 1 月の世界経済フォーラム（以下、WEF）年次総会（ダボス会議）にあわせて、「AI House Davos (<https://www.aihousedavos.com/>)」が開設され、東京大学 Beyond AI 研究推進機構^{*}は、Initiator として参画した。ダボスのメインストリートである Promenade には AI の看板を掲げるイベント会場があちこちに点在し、AI House Davos はいずれのセッションも参加者で会場が溢れる状況にあり、AI とその将来についての関心の高さが窺われた。



2. セッションの議論

6 つの Initiator 及び Partner 等により計 44 のセッションと 26 のラウンドテーブルが企画・開催され、各セッションには各界のトップ・リーダー、著名人など多数参加し、幅広い見地から議論が行われた。学术界からは藤井東大総長を始め多くの学長・教授、産業界からは IBM アービン・クリシュナーCEO を始め多くの CXO、政界からは独クリスチャン・リンドナー財務大臣、2018 年にジェフリー・ヒントン教授とともにチューリング賞を受賞したヤン・ルカン氏他著名人も数多く参加した。来場者数は約 5000 名であった。

セッションは 5 つのテーマ（AI の現状、AI の機会とリスク、AI のアプリケーション、次のフロンティア、レビューと概観）が日毎に設定され、そのテーマに沿ったセッション（1 時間弱）が行われた。

東京大学 Beyond AI 研究推進機構は他の Initiator と協力し、AI と高等教育、AI とガバナンスなどをテーマに、世界の有力大学の学長、有識者を招いてパネルディスカッションを

開催した。具体的には、藤井東大総長がモデレーターとして参加した“AI and Higher Education”、Beyond AI 連携事業関係では、AI と社会（板津）グループの江間有沙東大准教授がモデレーターとして参加した“AI Governance and Safety: G7 Hiroshima AI Process”、脳科学と AI の融合（池谷）グループと共同研究を行っている国際電気通信基礎技術研究所（ATR）の Aurelio Cortese 氏がパネリストとして参加した“Harmony in Coexistence: Navigating the Future of Human-AI Partnership”を開催した。

(1) AI and Higher Education

生成 AI の登場が高等教育にどのような影響を及ぼしているか、AI 時代にはどのような能力開発が必要になるか、印刷やインターネット・SNS を超えて大学での知識・情報の共有の仕方はどのように変化するかといった議論が行われた。

パネリストからは、各大学で学生だけでなく教員側にも生成 AI の影響が及んでいること、ChatGPT のプロンプティングに見られるように問いを設定する能力等が重要になってくること、AI により教育の民主化・個別化だけでなく、学際化が一層進展するといったコメントがなされた。

質疑応答においては、学生からデータサイエンスに多くの学生が流れると人文科学はどうなるのかといった質問があり、パネリストからはその重要性は変わらない、より関心が持たれるようになっているとの回答があった。



(2) AI Governance and Safety: G7 Hiroshima AI Process

パネリスト間（下記参考参照）で AI に関するガバナンスやルールについて現況が共有されるとともに、課題について議論された。

どの国でも AI が同じように活用される状況にはなっていないこと、ガバナンスやルールが議論される中で相互運用性(interoperability)が重要となることについてもコメントがあった。また、ガバナンスやルールの実装、浸透が進むには、マルチステークホルダー

での議論が必要であること、G7 や国連等の国際機関、企業、国際標準など多様な層間で連携し合っていく必要があることも議論された。



(3) Harmony in Coexistence: Navigating the Future of Human-AI Partnership

将来の人間と AI のインターフェースがどうなるか、人間と AI が共生するニュー・ノーマルの状況をどのように表現できるか、AI が広く受け入れられるにはどのような側面が重要になるかといった議論が行われた。



【参考：東京大学 Beyond AI 研究推進機構によるセッション】

(1) AI and Higher Education

Brian Schmidt (former President- Australian National University)

Eng Chye Tan (President - National University of Singapore)

Irene Tracey (Vice-Chancellor - University of Oxford)

Paul Alivisatos (President - The University of Chicago)

伊藤 公平 (慶應義塾大学 塾長)

藤井 輝夫 (東京大学 総長) 【モデレーター】

録画映像：<https://www.youtube.com/watch?v=ehC-QmhpKsE&t=1723s>

(2) AI Governance and Safety - G7 Hiroshima AI Process

Amandeep Gill (Under-Secretary-General, Tech Envoy - United Nations)

Anna Makanju (Vice President of Global Affairs - OpenAI)

Christoph Winterhalter (Vice President - International Organization for Standardization)

飯田 陽一 (総務省 情報通信戦略特別交渉官)

江間 有沙 (東京大学 東京カレッジ 准教授) 【モデレーター】

録画映像：<https://www.youtube.com/watch?v=KnTM4jGoZ00&t=1534s>

(3) Harmony in Coexistence: Navigating the Future of Human-AI Partnership

Aurelio Cortese (Head of Dep. of Decoded Neurofeedback, Computational Neuroscience Labs - Advanced Telecommunications Research Institute International)

Chris Luebke (Strategic Foresight, Office of the President - ETH Zurich)

Guillem Martinez (Roura AI and Robotics Programme Officer - International Telecommunication Union (ITU))

James Landay (Co-Director - Stanford HAI)

Menna El-Assady (Professor - ETH Zurich)

録画映像：<https://www.youtube.com/watch?v=aKMStsgk6f8>

【AI House Davos の概要】

AI House Davos では、学术界、産業界、政府及びその他の関連するステークホルダーグループの代表者を集めることを目指し、AI の影響に関するグローバルな議論を行うためのプラットフォームを作り、WEF 年次総会の際における AI の主要な国際会議の場と位置付けることを目的としている。東京大学 Beyond AI 研究推進機構は、Merantix 社、ETH AI センター、Swisscom、Hewlett Packard Enterprise、G42 と共に Initiator として参画した。

期間：2024 年 1 月 15 日（月）～19 日（金）

場所：WEF 年次総会メイン会場のコンGRESセンターから 750 メートルの Promenade に開設

※ 研究成果の社会実装・事業化を目的としたエコシステムの形成を目指す東京大学とソフトバンクによる Beyond AI 連携事業による研究拠点。<https://beyondai.jp/>